

地震一口メモ No. 199

冬の地震に備える

火災、寒さ、雪に注意！

年も明けて寒さもさらに厳しくなってきました。寒い時に地震が起こると被害がさらに大きくなる可能性があります。過去を見てみると平成7年（1995年）兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）、1946年の昭和南海地震も冬に発生しています。昨年末には政府が日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定を公表しましたが、発生時期・時間別で被害推計をしたところ冬の深夜に地震が起こった場合に最も津波による被害が多くなるという結果が出ました。その要因として、多くの人が就寝中で暗闇、積雪・凍結により避難が遅れることがあります。また、津波から逃れても低体温症により死亡するリスクが高まる人が最大で約4万2千人になると推計されました。日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震は身近な場所で起こる地震ではありませんが、この被害推計は他人事ではありません。寒い時期に大阪府周辺で地震が起こった場合も同様に危険があります。今回は冬に特に注意して備えていただきたいことを紹介します。

①火災への備え

冬は暖房器具を使用しており、空気も乾燥しているために火災の危険性が高くなります。また、地震による停電が復旧した際に、ガス漏れしているところや、倒れた電気器具、破損した電気配線に通電して火災が発生することがあります。以下の対策をして下さい。

<日頃行うこと>

- ・暖房器具のそばに可燃物を置かない。

<地震発生後、身の安全を確保した後に行うこと>

- ・電気器具の電源を切り、コンセントを抜く。ストーブの火を消す。
- ・ブレーカーを遮断する。



②寒さへの備え

地震によって電気やガスなどがストップして、暖房器具が使えなくなる可能性があります。

冬は非常持ち出し品に、

- ✓防寒着
- ✓毛布
- ✓使い捨てカイロ などを追加で用意しておいて下さい。



③雪への備え

大阪で大雪になることはあまりないですが、屋根に雪が積もると雪の重みで家の倒壊の危険性が高まります。また、地震の揺れで屋根から落雪すると避難経路がふさがれることがあります。雪深い所に行かれる際などにご注意下さい。



阪神・淡路大震災で焼失した地域（神戸市須磨区）
阪神・淡路大震災では火災が多く発生しました。倒壊した家屋等に挟まれて、迫りくる火災から逃げるができずに亡くなる方もいました。このようなことを防ぐためにも耐震固定だけでなく火災への備えも個々でしっかりするようにして下さい。

